

開催日時:	2004 年 12 月 5 日 (日) 9:00 ~ 13:35
場 所:	カラスマプラザ 21 8 階大・中ホール
参加者数:	委員 28 名、河川管理者 (指定席) 14 名、一般傍聴者 (マスコミ含む) 179 名

1. 決定事項: 特になし

2. 審議の概要

利水の状況に関する説明と意見交換

河川管理者より、利水の状況について、資料 1-1「利水についての中間とりまとめ」、資料 1-2「京都府営水道について」、資料 1-3「三重県 (伊賀水道用水供給事業) について」を用いて説明がなされた。その後、引き続き、意見交換が行われた。主な意見は以下の通り (例示)。

- ・青蓮寺ダムからパイロットファームに送水されているが、利用状況が低下している。他の用途に転用される可能性があるか。

農業用水は、灌漑期、非灌漑期の変動が大きいのが、一概に転用するわけにはいかない (河川管理者)。

- ・資料 1-1 では、京都府と三重県は協議を進めているとしているが、協議はどのような方向で進められているのかが問題である。

ダムの調査・検討に関する説明と意見交換

河川管理者より、資料 2-1「淀川水系 5 ダム調査検討について (中間とりまとめ)」を用いて、丹生ダム・大戸川ダム・天ヶ瀬ダム再開発・川上ダム・余野川ダムの調査・検討について説明がなされた後、意見交換が行われた。主な意見は以下の通り (例示)。

丹生ダムの調査・検討に関する意見交換

- ・環境の部分では、環境再生の基本方針を示していないので、疑問を感じる。

環境の問題については、各ダム共通事項として 2 頁に記述している。ただ、水位低下の抑制では、環境に対してどの程度の効果があるのかを示せていない (河川管理者)。

- ・丹生ダムは、重大な影響があると考えていないとしているが、重大の判断基準は。また、その場合、予防原則の考え方が入ったものかどうか。

判断基準は難しく、明確な定義をつくることはできない。個々の現象をみて判断したい (河川管理者)。

- ・これまで多くのデータがあり整理されているはずであるが、過去の経験から対応できることが書かれていない。避けられるもの、避けられないものがあるはず。

- ・森林環境喪失等の問題に対して、どうしていくのか。どのような方法で評価するのが問題。

環境への問題については、十分に説明できておらず、この問題を考えた上で、実施する、しないと判断していく (河川管理者)。

- ・環境への影響については、5 ダム全てに今後検討すると書いてあり、環境軽視の印象をぬぐえない。

特に、丹生ダムの融雪水は大きな課題と認識している (河川管理者)。

- ・環境の問題は、どの程度の時間の幅でみるかであるが、長期的にみる必要がある。最初にダムの効果があっても、20 年たってどうなのか。

大戸川ダム・天ヶ瀬ダム再開発の調査・検討に関する意見交換

- ・天ヶ瀬ダム再開発による環境への影響として、放流能力の増大による低周波音の拡大とあるが、現状では確認しているのか。

現状では確認しており、基準をクリアしている。放流能力を拡大すれば再度、検討する（河川管理者）。

- ・鹿跳の流下能力を高める方法は。

直接、関係していないので、ここには書いていないが、整備シートをみて欲しい。景観上、保全したいと考えている（河川管理者）。

余野川ダムの調査・検討に関する意見交換

- ・治水面で建設に対するかすかな方向を見出しているようだが、ダムを建設した場合でも正常流量の確保は当然であり、これは建設の目的にはならない（今本リーダー）。
- ・神崎川の洪水対策等が触れられなかった。住人対話集会では早く結論を出して欲しいという声があり、そうして欲しい。
- ・狭窄部を開削することによって、全ての洪水に対して大丈夫だということができるか。
- ・流域委員会としては、下流との関係で狭窄部は原則として開削しないと言ってきたが、開削するのならば、そういう検討をしていく（今本リーダー）。

全体の意見交換

- ・丹生ダム、川上ダムは、治水について即効性があるとしているが、利水の撤退が明らかになり、加えて、環境問題や財政の制約等の問題がある。ダムを建設するのに7～10年といっても、本当にその期間でできるのか。ダム以外の方法で治水対策ができるのではないか。

堤防補強は、最優先で実施していくということである。即効性については、ダム以外の方法では用地の問題、計画を受け入れるための時間もあり、7～10年で効果が発揮できるというように自信を持って言えない。

- ・ダムをつくらないことにより、全川を掘削すると環境面での影響が大きい。それも考えて欲しい。

3. 一般傍聴者からの意見聴取

一般傍聴者9名より発言があった。主な意見は以下の通り。

- ・委員会に力が入っているのか。流域住民から見ると、今の議論はさっぱりわからない。
- ・岩倉峡の開削は、下流への影響を考え当面できないと言ってから38年経過しているが、今だに当面開削できないと言っている。
- ・水資源機構のダムは、新規利水がなくなれば法的根拠がなく全面撤退すべきである。利水をこれまで明らかにしなかったこと自体がおかしく、その間工事が進み撤退しにくくなっている。
- ・川上ダムは地盤の問題があり、対策費だけで1500～2000億円を要する。それでも必要なのか。
- ・京都府の利水の見直しは評価している。異常洪水の問題については、大川の維持流量のカットが大きな意味を持つ。参考資料-1に回答結果があるので読んで欲しい。
- ・川上ダムは、既往最大規模の洪水に対し、上流遊水地等で対応が可能であるが、それでも必要だと地元に対して提示しているのは不思議だ。
- ・新潟や福井の水害は、ダムがあっても起こった。環境や財政の問題からダムのコストパフォーマンスは非常に低い。環境負荷の大きいダムから撤退して、堤防強化、掘削、森林整備、遊水地等を充実して欲しい。
- ・発言はダム反対ばかり、環境問題ばかりで、何故、賛成という意見が出ないのか。
- ・ダムは治水面で必要性は明らかで、利水容量も載せるべきだ。

以上

このお知らせは委員の皆様には主な決定事項などの会議の結果を迅速にお知らせするため、庶務から発信させていただくものです。